

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.75 (2022.6.27)

令和4年度スローガン
みんなで目指す顧客感動経営
生産性とエンゲージメントの向上
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄



きっかけは秋田大学の先生からの pdf 添付メールからでした。そこには旧岩崎橋（現在は十文字大橋と言って横手市の橋です）と JR 岩崎鉄橋の建設にまつわる話が紹介されておりました。私も初めて見る文章でしたので出典を質問したところ、今から36年前の昭和61年10月21日から63年5月20日まで、255回に及んで秋田さきがけ新聞朝刊第3社会面に連載された「橋物語」という記事を本にしたものであることが分かりました。さっそくアマゾンで検索して購入したところ県内の主だった橋梁が掲載されており、昭和10年に当社が施工した東成瀬村の田子内橋も掲載されておりました。

この本の巻末には「橋に思う」というあとがきがあり、「起伏に富んだ日本列島、どこにでもある橋を行き来しながら、地域の歴史を、その時々人間模様を、土地と人とが織りなすドラマを、かみしめてみよう—そんなねらいで「橋物語」はスタートした」とありました。さらに「みちであればいけるものでもつくれるが、橋は、人間だけがつくるものだ。大自然を掘りこんだ川は、かつては決定的な境界でもあり、それを超えてあちら側へ行ってみたいという渴望が膨らんでもいったらう。～後略～」とありました。

奥羽本線が全線開通したのが明治38年9月14日、岩崎鉄橋が完成したことで青森から上野までがつながりました。その時の湯沢駅の様子が次の様に書かれていました。「芝居、相撲などの興行に加え、数千発の花火が終日打ち上げられた。夜には関東、関西から集まった花火師による花火大会が催され、その豪華さは地元の人たちの肝を奪った。また、汽車を一目見ようと連日、近郷から万余の人が蛸集（いしゅう）し、道は菅笠（すげがさ）で真っ白になった。湯沢にこれほどの人が集まったのは初めてである。駅前には紅白の幕が張り巡らされ、各家庭では日の丸を立て、赤飯を炊いて祝った。」

普段何げなく渡っている橋ですが、それぞれの橋にはドラマが有り、完成までにはその時代の多くの人々の努力と情熱が注がれていたのだと改めて感じ入りました。橋梁や鉄道などのインフラは大事に利用し、必要なメンテナンスを施して次世代に引き継ぐことが、先人たちの努力に報いるためにも、現代に生きる私たちの責務であると改めて感じました。

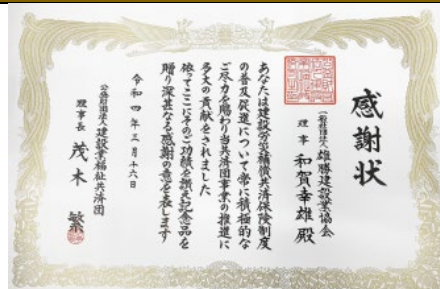
雄勝建設業協会総会



令和4年5月24日 於 湯沢グランドホテル

5月24日に開催された令和4年度総会で当社の高橋努社員が永年勤続表彰を受けております。おめでとうございます。これからも健康に留意して頑張ってください。

秋田県建設業協会総会



6月1日秋田キャッスルホテルにて令和4年度総会が開催され、公益財団法人建設業福祉共済団より感謝状を頂きました。労災保険に上乗せして保険金を支払う補償制度に永年加入していることによるものです。

雄勝校出前講座

6月7日湯沢翔北高校雄勝校で雄勝建設業協会として出前講座を実施しました。全校生徒と教職員の皆さんに50分時間を頂いて建設業についてお話させて頂きました。OBとして丹嘉唯登君にも登場頂きました。

